

独立なボーズ凝縮体間の干渉性について

- ▲ 相関の無い物の間に干渉性があるのか？
- ▲ 観測することで干渉が生じる？
- ▲ ボーズ凝縮体であることはこの現象の本質？



量子力学適用可能範囲の探究

- ・ 量子力学は疑わしくないのか？
↓
- ・ 量子力学にのっとり
少なくともどこまで成り立っているか検証
↓
- ・ 怪しげな観測理論は量子力学？
- ・ 巨視的量子現象？

慣例の観測理論

- X_1 に粒子を
観測する行為

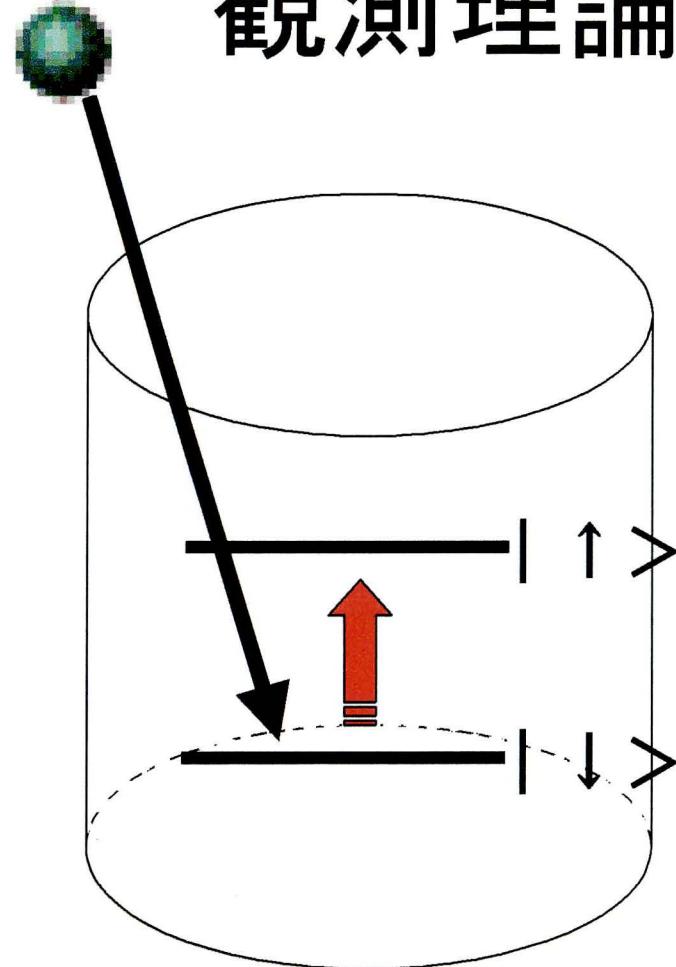
=

- $\psi(X_1)$ を
作用させること

しかし

量子力学では、状態の変化は
unitaryであるはず、、、

量子力学に従って 観測理論を定式化しよう



モデルは図のような
counterを仮定するだけ

- Counterはtwo state atom
- 原子を吸って
 $| \downarrow \rangle$ から $| \uparrow \rangle$ へ flip

その相互作用は？

Counterと原子の相互作用Hamiltonianは

$$\mathcal{H}_I = g (\sigma_+ \psi(x) + \text{h.c.})$$

gは結合定数

$$\sigma_+ = | \uparrow \rangle \langle \downarrow |$$

・このようなcounterが測定領域を覆っている

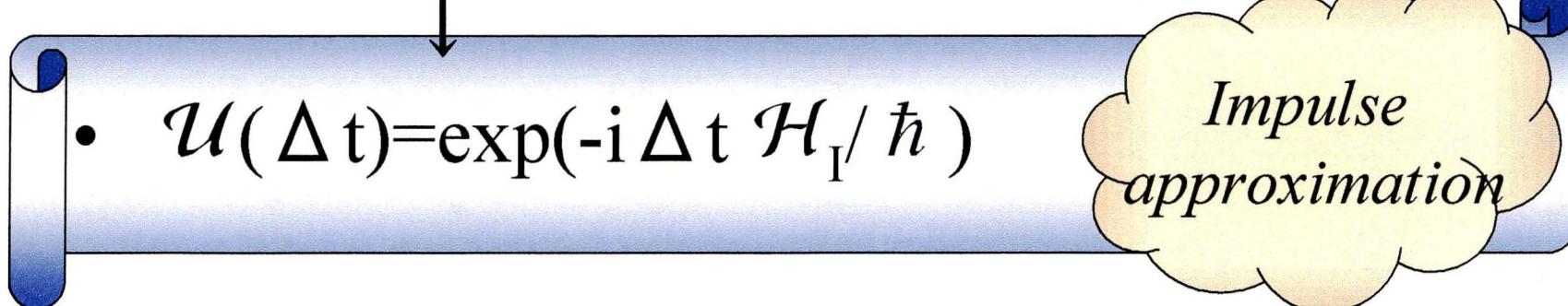
・各counterのindexをjとして全体としては

$$\mathcal{H}_I = g \sum_j (\sigma_{j+} \psi(x_j) + \text{h.c.})$$

観測中の時間発展

- 測定の時間発展はunitary演算子 $\mathcal{U}(t)$
$$\mathcal{U}(t)=\exp(-it(\mathcal{H}_0+\mathcal{H}_I)/\hbar)$$

- 極めて短い間 Δt だけ測定
- その分測定能力gを上げる



$\mathcal{U}(\Delta t)$ を展開しよう

- $\mathcal{U}(\Delta t) = \exp \left\{ c \sum_j (\sigma_{j+} \psi(x_j) + h.c.) \right\}$



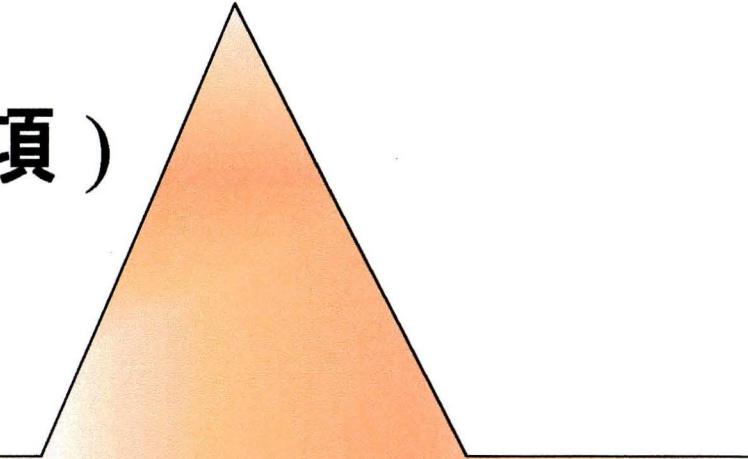
- これを c について展開する。
(さっきの仮定と折り合う程度に c は充分小さい)



- そして $\psi(x)$ と $\psi^\dagger(x)$ の多項式を
“ ψ の数 - ψ^\dagger の数”
と言う観点からまとめ直すと

$$C := -i \Delta t \mathbf{g} / \hbar$$

- $\mathcal{U}(\Delta t) = \sum_n (c^n/n!)(\underbrace{\text{"}\psi\text{の数} - \psi^\dagger\text{ の数} = n\text{"の項}}_{(n=0 \sim \infty)}) + (\text{"}\psi\text{の数} \leq \psi^\dagger\text{ の数"}\text{の項})$



$$= \sum_{jj' \dots j(n-1)} \sigma_{j,+} \sigma_{j',+} \dots \sigma_{j^{(n-1)},+} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) \dots \psi(x_{j^{(n-1)}})$$

$$+ c^2\text{の項} + c^4\text{の項} + \dots$$

今まで略記してきた h.c. を明示すると

$$\begin{aligned} \mathcal{U}(t_0 + \Delta t, t_0) &\doteq \exp(-i \Delta t H_i / \hbar) \\ &= \exp \left\{ c \sum_j (\sigma_{j+} \phi(x_j) + \sigma_{j-} \phi(x_j)^\dagger) \right\} \\ &= \sum_{s=1}^{\infty} \frac{1}{s!} c^s \left(\sum_j (\sigma_{j+} \psi(x_j) + h.c.) \right)^s \end{aligned}$$

これをばらして次のようにまとめ直す。

$$u(t_0 + \Delta t; t_0) = 1 + \underbrace{\left(c^1 \sum_j \sigma_{j+} \psi(x_j) + c^3 (\psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi^\dagger \psi \text{ を含む項}) + c^5 (\psi^\dagger \psi \psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi \psi^\dagger \psi^\dagger \psi \text{などを含む項}) + c^7 \dots \right)}_{\psi \text{の数} - \psi^\dagger \text{の数} = 1 \text{の項}}$$

$$+ \underbrace{\left(\frac{1}{2!} c^2 \sum_{j,j'} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) + c^4 (\psi^\dagger \psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi^\dagger \psi^\dagger \psi \text{などを含む項}) + c^6 \dots \right)}_{\psi \text{の数} - \psi^\dagger \text{の数} = 2 \text{の項}} \dots \dots \dots$$

+

$$+ \underbrace{\left(\frac{1}{n!} c^n \sum_{j,j' \dots j^{(n-1)}} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \dots \sigma_{j^{(n-1)+}} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) \dots \psi(x_{j^{(n-1)}}) + c^{n+2} \text{の項} + c^{n+4} \text{の項} + \dots \right)}_{\psi \text{の数} - \psi^\dagger \text{の数} = n \text{の項}}$$

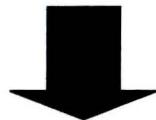
+

途中経過はともかく

結局どう結論できたか

Cは充分小さいので各nにおいて c^2 を無視すると

(“ ψ の数 - ψ' の数 = n ” の項) は



$$\sum_{j_1, \dots, j_{(n-1)}} \sigma_{j_1} \sigma_{j_2} \cdots \sigma_{j_{(n-1)}} + \psi(x_j) \psi(x_{j_2}) \cdots \psi(x_{j_{(n-1)}})$$

となる。

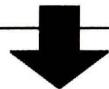
X_j, X_{j₂}, …, X_{j_(n-1)} 点の
counterが
観測すること

=

$\psi(x_j) \psi(x_{j_2}) \cdots \psi(x_{j_{(n-1)}})$
を作用させること

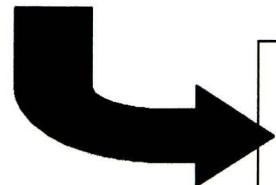
各n(観測した点の数)に対して
 c^2 以上の項を無視している。

異なるnのものを同じ枠組で扱えば
矛盾が。



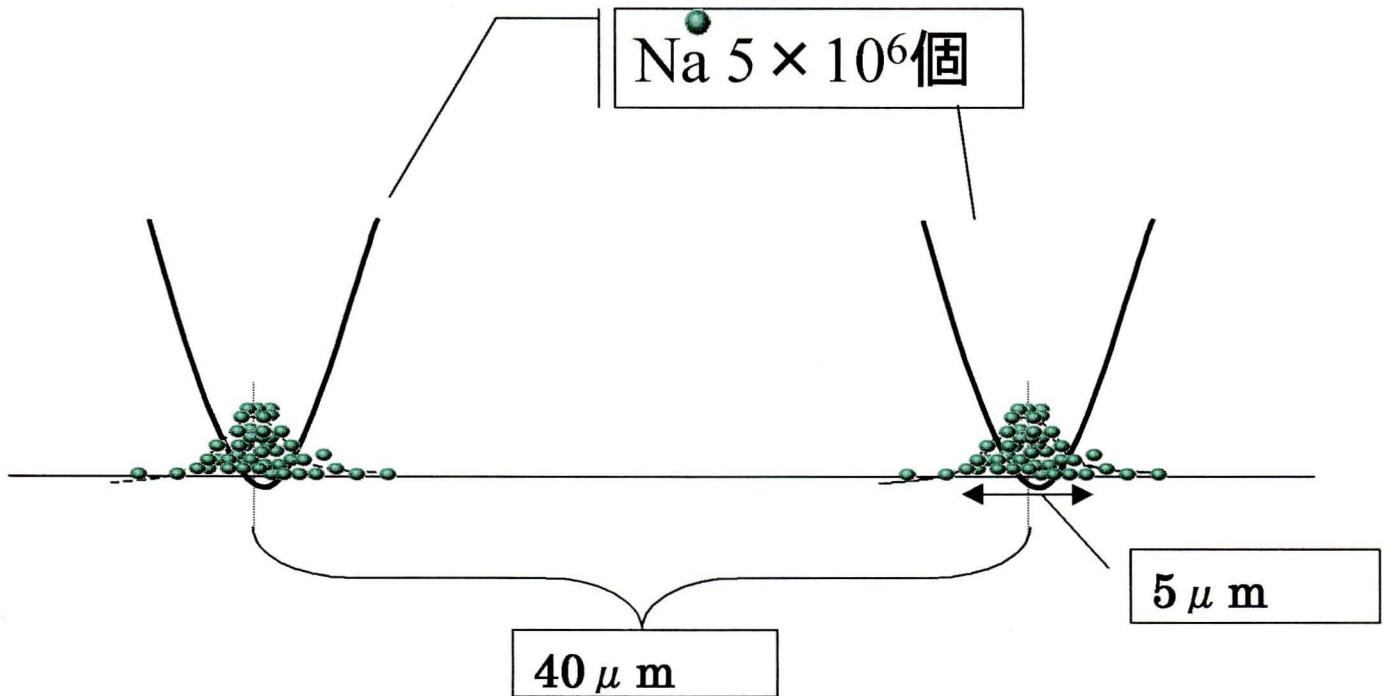
counterの検出した粒子の数が
nであるという事象の集合内で
確率を議論するモデル

n-counter model



『観測行為は $\psi(x)$ を作用させること』
と定式化できた

実験のあらまし1



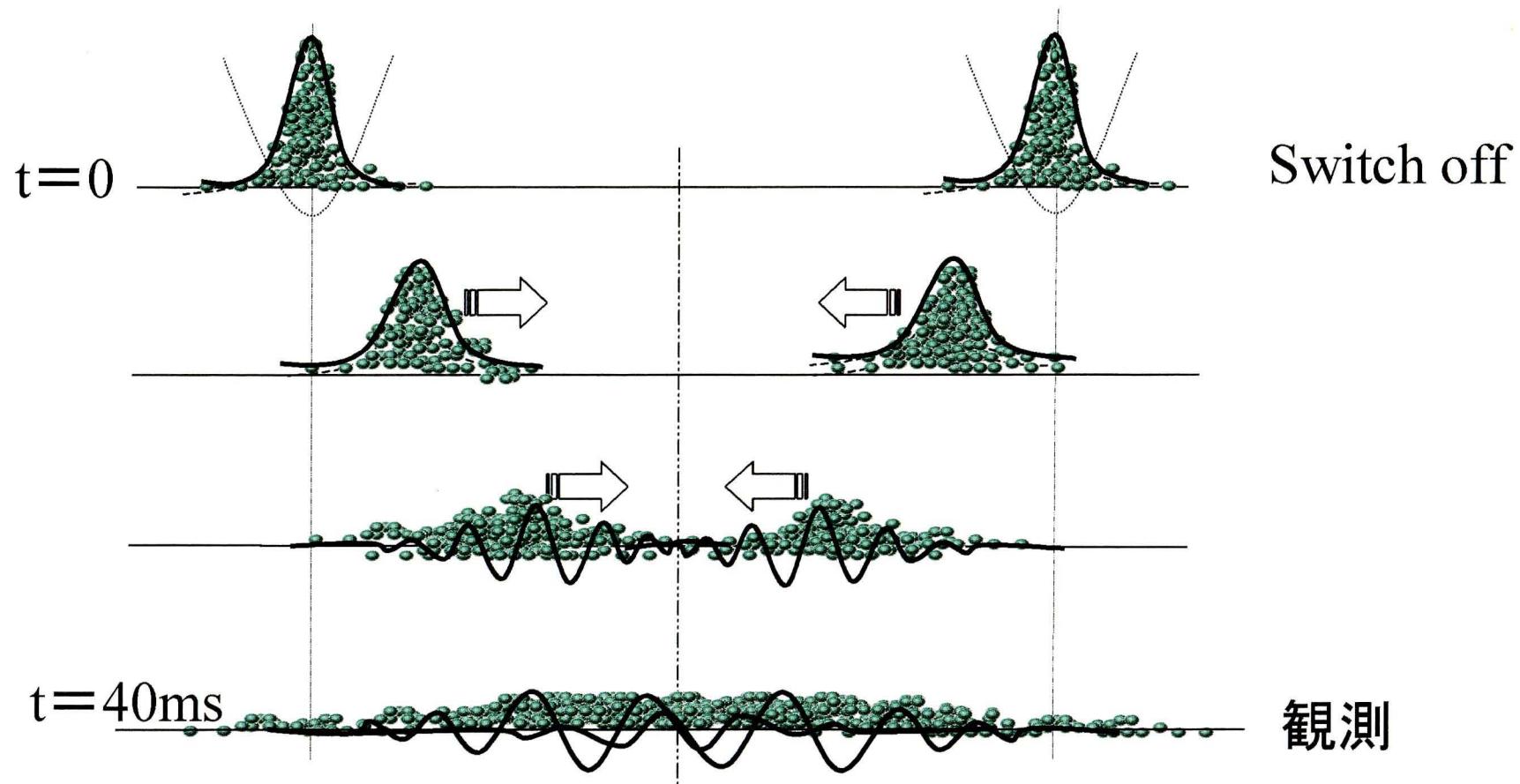
磁気と光でボーズ凝縮体をトラップ

Overlapは@ @ @ @ @ @ @ @ @ @



量子的相関は無い

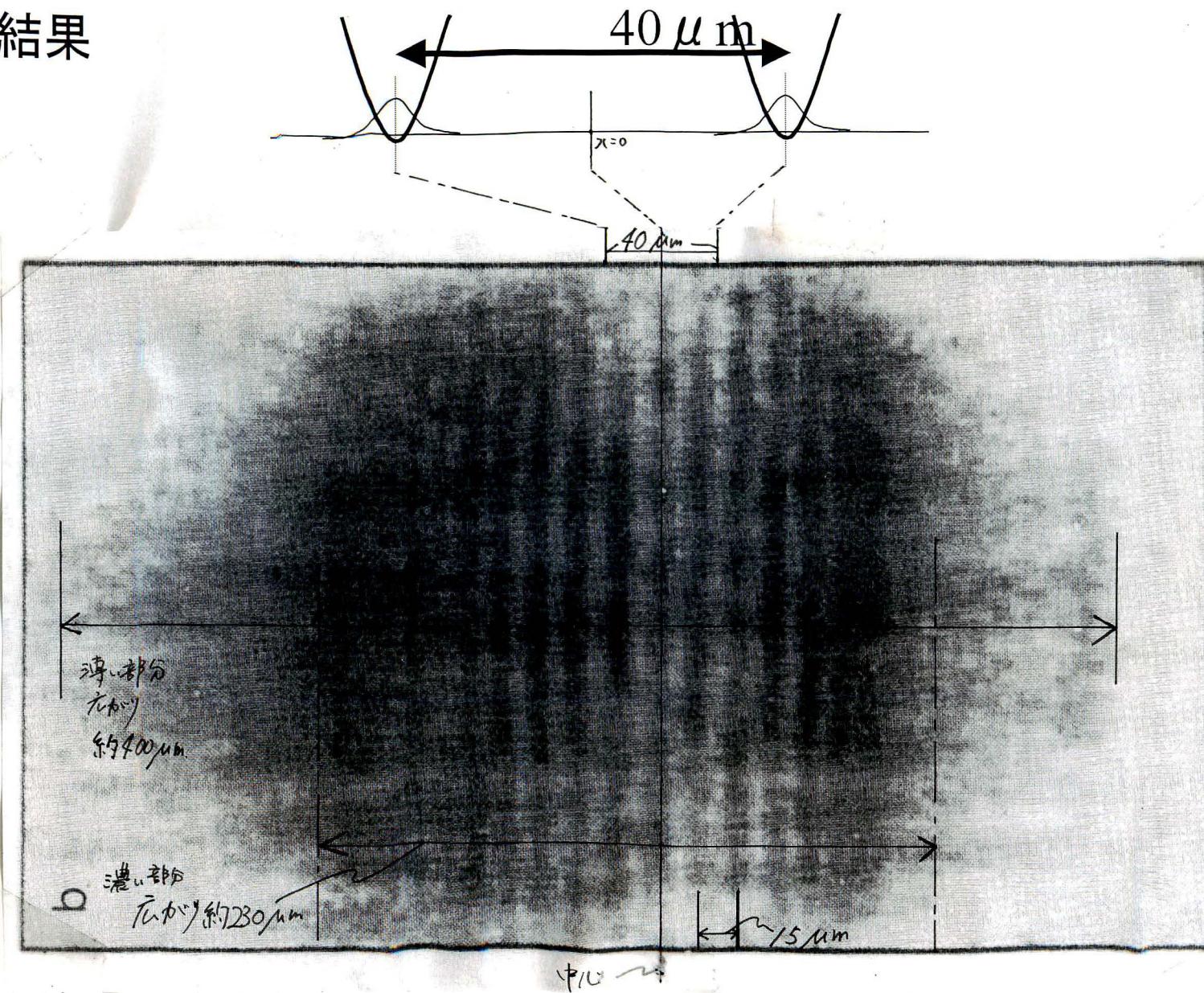
実験のあらまし2



下方へ落下しつつ、互いに他方の中に入り込む

$t=40\text{ミリ秒}$ に光を当てて観測。

実験結果



M.R.Andrews, et al. ; SCIENCE 275(1997)637 より転載

実験のモデル化



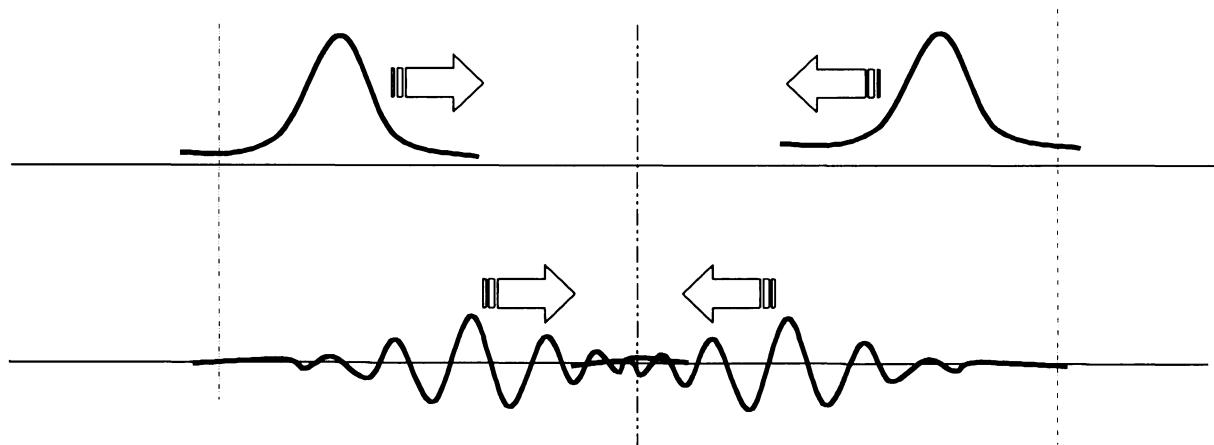
磁気と光でボーズ凝縮体をトラップ



各々調和振動子型potentialでモデル化

Na原子はその基底状態(Gaussian)へ
ボーズ凝縮していたものとする

Trapを切った後、
広がりつつoverlapして行くボーズ凝縮体



1. 切る前、Gaussianであったこと
2. ボーズ凝縮体の進む速さは $\hbar k/m$ の2点を考慮して



初期状態を $\text{Gaussian} \times \exp(\pm ikx)$ とモデル化

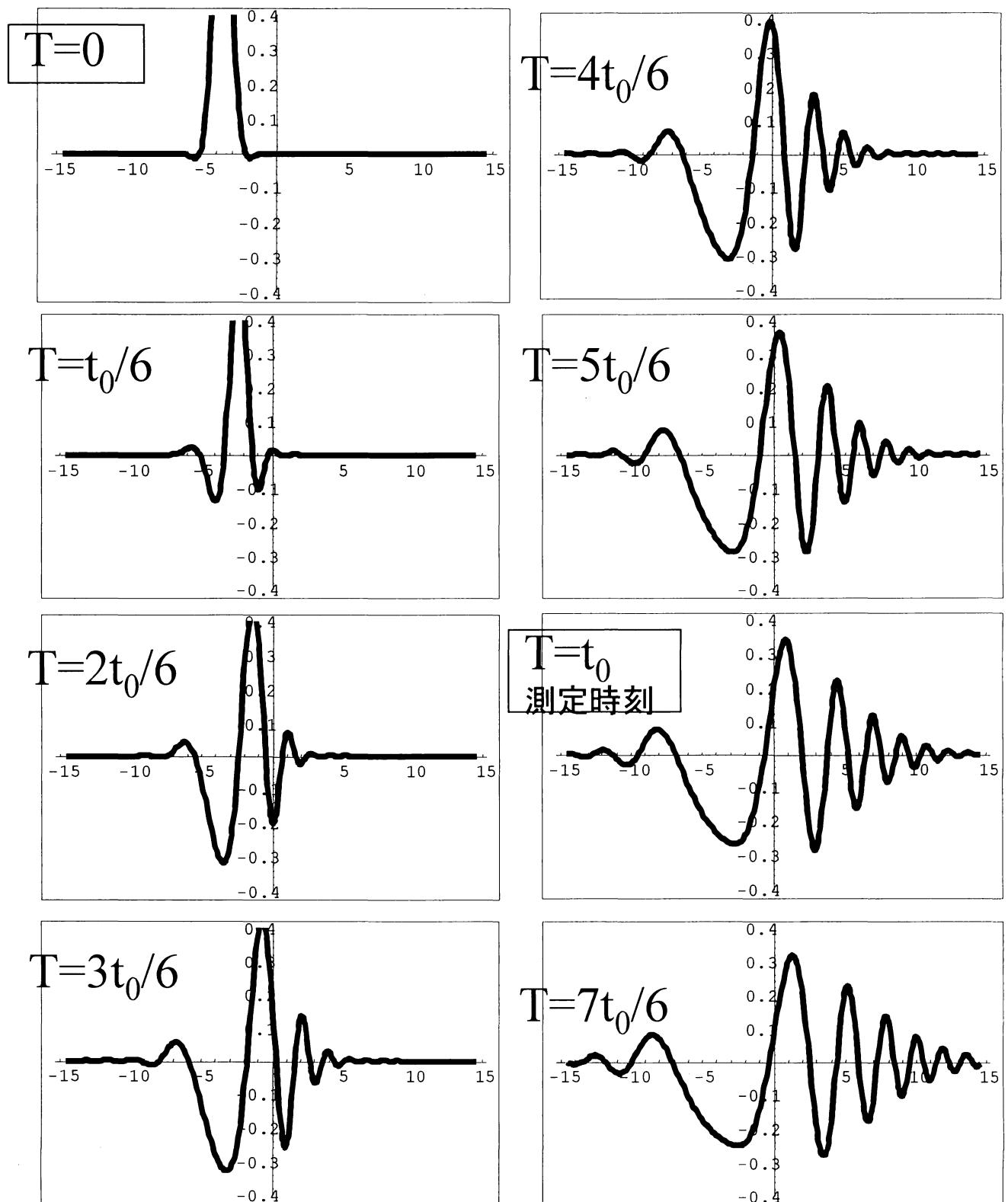
以降は測定時刻 t_0 まで \mathcal{H}_0 で時間発展



具体的には、各Na原子が
1粒子系の自由空間で時間発展したもの
(広がりつつ平均速度 $\hbar k/m$ で進む波束)

実成分のみ

波束で表現した ボーズ凝縮体の時間変化(L側分)

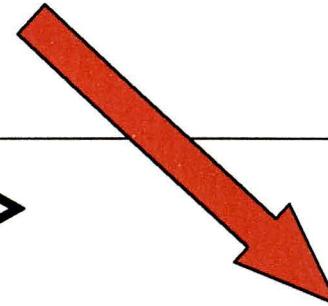


1-counter model $\sim x_1$ で観測

Lから来たBECの数

Rから来たBECの数

$$\Psi(x_1) \rightarrow |N/2, N/2\rangle$$



$$(N/2)^{1/2} \phi_L(x_1) |N/2-1, N/2\rangle$$

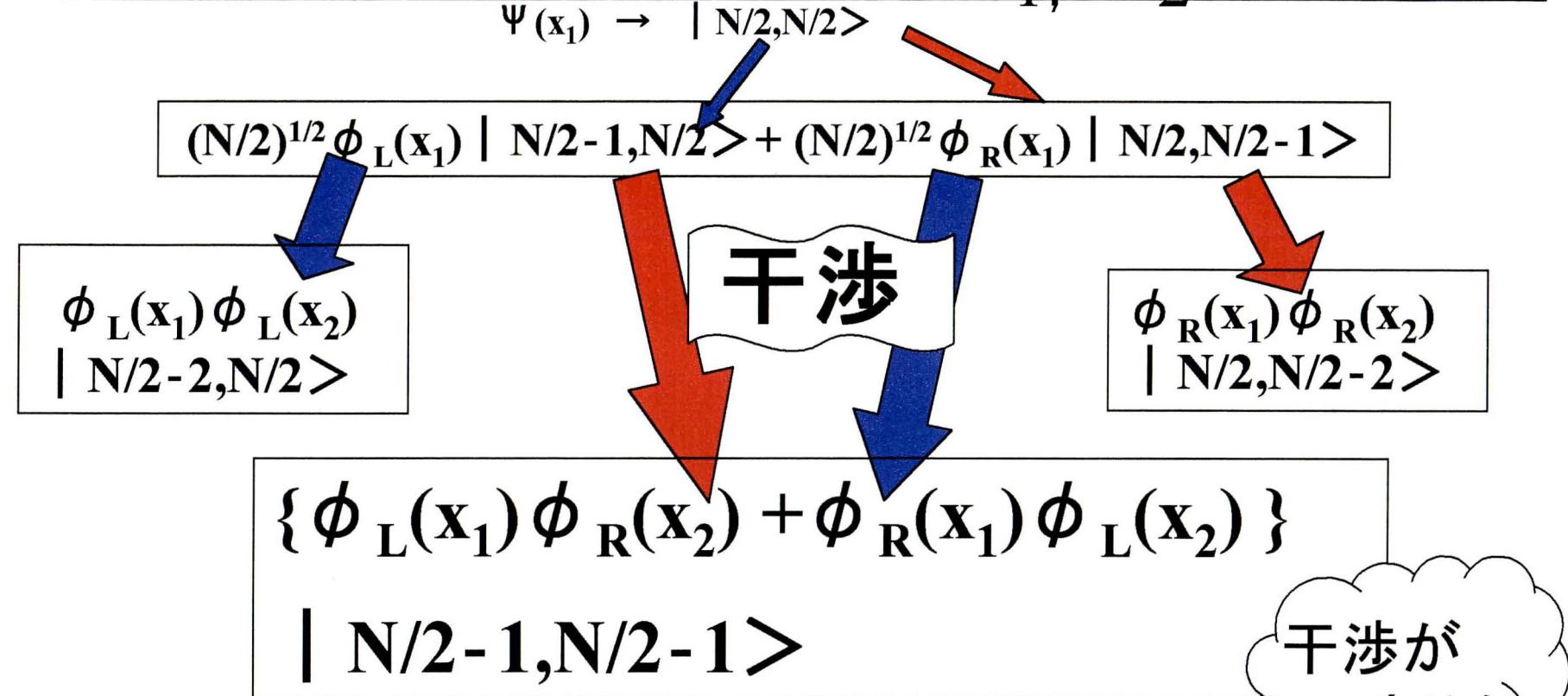
$$+ (N/2)^{1/2} \phi_R(x_1) |N/2, N/2-1\rangle$$

x_1 に見出す確率

$$P_1 = |\phi_L(x_1)|^2 + |\phi_R(x_1)|^2$$

干渉は
無い

2-counter model $\sim x_1, x_2$ で観測



x_1, x_2 に見出す確率

$$P_{12} = |\phi_L(x_1) \phi_R(x_2) + \phi_R(x_1) \phi_L(x_2)|^2$$

$$+ |\phi_L(x_1) \phi_L(x_2)|^2 + |\phi_R(x_1) \phi_R(x_2)|^2$$

干渉が
生じた

$N=2$, 2-counter model

